



CONTENTS

WS Topics

1

VOICE

2

若者の車離れ

J R東日本 横田 昇吾

たすきリレー

3

この3年間の出来事

東急建設(株) 丸山 修

今月の国際比較データ

4

P F 書店／私のインフラ巡礼／編集後記

5

WS Topics

2023・2024年度 未来構想 P F ワークショップ （第5回 講演会 ～「鉄道と街づくり」を考える）

去る9月24日に2023・2024年度未来構想ワークショップ第5回が開催されました。今回は、ワークショップの活動の参考とすることを目的に東京臨海高速鉄道(株)担当部長の松本香澄様をお招きして「『鉄道と街づくり』を考える」と題した講演会を開催いたしました。講演会では、まちづくりのご経験から鉄道とまちづくりの関係、臨海部における交通動線などについて様々な視点からご説明いただき、まちづくり事業は住民・社会ニーズにアンテナを張り事例から学ぶことが大切であること、高齢化社会で駅の在り方や質を高めるべきであることなどとまとめていただきました。講演後には、羽田アクセスや臨海地下鉄などの経緯や動向なども含め予定時間を超過するほど白熱した質疑応答が行われました（次回のWSは10月28日に中間報告の予定です）。



松本講師



林会長ご挨拶



講演会の様子



私のインフラ巡礼



～銅閣寺（大雲院）～

金閣寺、銀閣寺に比べ知名度は今ひとつな祇園閣
（中日本ハイウェイエンジニアリング名古屋 笠 充孝さん）

未来構想PFのホームページ
（HP）をご覧ください。

会員はもちろん社会に大きく
開かれた「参加型」HPです。

未来構想 P F

検索

で検索してください。

トップページへのリンクは

[こちら](#)



VOICE

若者の車離れ

J R東日本 横田 昇吾

1. はじめに

若者の車離れという言葉を目にする機会があるかと思います。私も、もう若者という年代でもなくなってきていますが、自動車保有しておらず、自動車を利用する際には、レンタカーやカーシェアリングを利用しています。そのような中で、自動車の保有や利用等の動向について気になり、調べてみました。

2. 自動車の保有意欲と利用意欲

若者の車離れを調べると、平成24年度国土交通白書に記載があります。少し前のデータとなりますが、世帯形態別の自動車保有率をみると、1999年から2009年の10年間で、単身世帯の30歳未満は55.3%→46.5%、二人以上の一般世帯の30歳未満は87.5%→81.5%となっており、いずれも減少しています。一方で、免許保有率をみると、若者は微減傾向にはありますが、2011年は全国で20代が81.8%、30代が90.4%となっており、依然として高水準となっています。このようなことから、平成24年度国土交通白書では、「日常的な移動目的で車を保有する必要性が低下していることや経済的な理由により車の保有意欲が減退する一方、免許を保有することは将来的に車を運転する機会に備えてのことであることを踏まえると、レンタカーを利用して旅行に出かけるなど、単発的な機会に自動車を利用しようとする意欲は継続しているものと考えられる。」とまとめられています。（自動車保有率・免許保有率データはいずれも平成24年度国土交通白書より）

3. 自動車を保有せずに利用するカーシェアリング

自動車を保有せずに必要な時に利用する方法としては、レンタカー、カーリース、カーシェアリング等が挙げられますが、その中でも近年、利用が進んでおり、私も時々利用しているカーシェアリングについて

です。カーシェアリングは、1台の自動車を複数の会員が共同で利用するという利用形態であり、種類として大きく分類すると、BtoC型カーシェア（企業が所有する自動車を共同利用）とCtoC型カーシェア（個人が所有する自動車を共同利用）があります。公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団による2024年3月調査では、カーシェアリングの国内の会員数は4,695,761人（前年比50.0%増）、貸渡車両数は67,199両（前年比19.6%増）といずれも増加傾向にあります。

利用者目線でみると、利用する頻度や時間にもよりますが、基本的には、料金は利用した分であるため、自動車を保有する場合と異なり、車の購入費用や車検代・保険料といった維持費がかからないといったメリットがある一方で、共同利用であるため予約が埋まっていると必ずしも利用したい時にいつでも利用できるわけではないといったデメリットもあります。また、自家用車ではなくカーシェアリングの利用が増えることにより、自動車の保有が減少し、自家用車の過度の利用が抑制され、公共交通や徒歩・自転車等の利用が増加することで、環境面でのメリットも期待されます。

4. おわりに

今後、自動車の完全自動運転が実現した際には、自宅とは別の場所にいる自動車が自宅にやってくるといったこともできるようになり、他者との自動車の共有もより行いやすくなることで、個人による自動車の保有がさらに減少する可能性も考えられます。また、タクシーが無人タクシーとなれば、実質的には現在のカーシェアリングから運転手がいなくなったものとの違いもなくなると思われます。

若者の車離れという言葉を発端に、自動車の保有や利用等の動向について、とりとめもない文章となりましたが、普段の業務で携わっている鉄道だけでなく交通全般や、さらには世の中全般の動向について、今後も注視していきたいと思っております。





たすきリレー

この3年間の出来事

東急建設(株) 丸山 修

この3年間、今までに経験したことのない出来事に遭遇し、その時の感想や考えたことを書きとめておければと思い執筆しました。このような機会に恵まれ感謝いたします。

コロナ禍、鉄道OBの仲間入り

3年前の2021年7月、国鉄、JR、JRCを経て、東急グループの東急建設に入社しました。遂に大先輩達に倣い鉄道OBの仲間入りをしたのだと感慨深い気持ちでいっぱいでしたが、入社時期は、まだコロナ禍の影響もあり、期待していたOB会もほとんどなく、鉄道OBとして何ができるのか、考えると不安な時期であったように思います。

アフターコロナは、2022年5月頃から徐々に感じられるようになりました。飲み会も少しずつ多くなり、鉄道OB会への出席を予定表に書いて外出する機会が増えました。なかでも、情報交換会として集まる会合では、飲みながら直近の話題に花が咲き、多くの情報に感謝の思いでした。

新型コロナウイルス感染症は2023年5月8日に感染症法上の「5類感染症」に移行し、マスク着用も個人判断で着用しない人も多くなりましたが、その後も感染者数は増減を繰り返しながら収束することなく推移しています。ワクチン接種も2023年度末までに6回を数えましたが、2024年2月初旬、風邪と思い受診した病院で新型コロナの陽性反応が出ました。どこで感染したのか、全く見当が付きません。コロナ禍での衛生習慣が如何に大切であったか思い知らされました。

ロシアのウクライナ侵攻など世界戦争が勃発

2022年2月24日、ロシアがウクライナに侵攻したことに驚きました。地球の反対側の遠い地のことながら、大国であるロシアが兄弟のような国を何故侵攻するのか、新聞記事やニュースだけでは理解出来ず、わかりやすい書物を探したことを思い出します。最初に手にしたのは、「民族でわかる世界史」（宝島社、監修：宇山卓栄）で、「民族の歴史を知れば国際情勢の今がわかる」という見出しでしたが、複雑な歴史背景があったことに心が痛む思いでした。次に選んだ書物は、「安倍さんと

語った世界と日本」（ワック株式会社、著者：高橋洋一）で、「ウクライナ戦争で世界と日本の経済はこうなる！」という見出しでした。このなかに、ロシアとウクライナの関係、ロシアの反米・反NATOの姿勢が強まった歴史、背景が詳述されています。“かつては、戦争経済学は経済のために戦争が起き戦争に勝った国が豊かになるという考えがあった”との一文がありましたが、歴史は繰り返し自国の経済のために今の世も戦争は起きているのだと確信します。

世界戦争はロシア・ウクライナ戦争だけでなく、2023年10月7日からパレスチナ・イスラエル戦争も勃発しました。両国の紛争の歴史は長く、イスラエルは戦争を止める気配がありません。さらに周辺国のレバノン、イランとも攻撃の応酬が開始されました。世界情勢はかつての東西冷戦に遡り、既に第三次世界大戦の渦中にあるのではないかと危惧する思いです。

マイナス金利政策から金利政策の正常化へ

2024年8月5日（月）の東京株式市場で日経平均株価が急落し前週末比4,451円安の31,458円になりました。日本発のブラックマンデーとも言われ、下げ幅は1987年10月20日（米国株急落によるブラックマンデー翌日）の3,836円を超え過去最大となりました。原因は、日銀が7月30、31日に金融政策決定会合で政策金利を0.25%に引き上げを決めたことから、日米金利差の縮小・米景気不安に急速な円高、大幅な株安となったようです。

2013年3月20日に日銀総裁に就任した黒田東彦氏のもと2016年1月に導入した異次元金融緩和（マイナス金利政策）は2024年3月1日に解除されました。金利政策の正常化に向けた動きです。2023年4月9日に日銀総裁に就任した植田和男氏は経済学者であるというのですが、1998年に日銀の審議委員に就任しており、長期金利の低位安定を目的としてゼロ金利政策を主導した人物でもあります。植田総裁の就任とともに日本経済・社会はどのようになるのか、興味を持つようになりました。そのような時期に本屋で目にしたのが、「植田日銀 こう動く・こう変わる」（日本経済新聞出版、著者：清水功哉）でした。日本経済はデフレ基調で失われた30年とも言われますが、もっとも働き盛りで過ごしたこの時期にサラリーマンであったことを考えると何とも寂しいものがあります。

8年前、個人住宅を購入するため住宅ローンは変動金利を選択しました。少しでも長く金利が上昇しないことを願っておりましたが、



いよいよ住宅ローンの変動金利も10月1日から上がりました。まだまだ金融緩和の最中であるとは言え、賃金ベースアップのある社員とは違い、減ることはあっても増えることのない嘱託社員には厳しいものがあります。

WBCで優勝した侍ジャパンに感動

2023年3月22日（水）野球日本代表の侍ジャパンは、「2023 WORLD BASEBALL CLASSIC」(WBC)決勝で米国代表に3-2で勝利し3大会ぶりの3度目の優勝をしました。立役者は大谷翔平選手ですが、他選手の活躍ぶりにもたいへん元気をもらいました。全ての選手は、本シーズンが始まる前の世界大会で体調管理に気を遣う時期だと思いますが、侍ジャパンの全身全霊で闘う姿、結果を求める強い精神力、そして優勝という結果に喜びを分かち合う同志の絆、世界で活躍する日本人の姿にたいへん感動したことを覚えています。

そして2024年度の大谷選手は、昨年シーズン後の手術により二刀流ではなく打者走者として偉業を成し遂げました。昨年シーズン後に移籍したドジャースを地区優勝に導き、個人記録も全人未踏の「42-46（本塁打数-盗塁数、1998年記録）」を超え、54-59の数字を残しました。野球が好きというだけでなく、野球を楽しむために最善を尽くす、チームメイトとのコミュニケーション（和）を大切にする、野球ファンへの感謝を忘れない、そして何よりも日本人として世界で活躍することにたいへん喜びを感じます。

さいごに

この3年間の出来事では、2022年7月8日に安部元内閣総理大臣が銃撃され死亡したことにたいへんショックを受けました。“想定外”なことや、“今までに経験したことがない”などの表現をよく耳にします。高齢者の仲間入りをして、まだまだ経験したことがないことがこれからも起きると思いますが、今までの経験知を活かし鉄道業界・建設業界のため、少しでもお役に立てるよう鉄道OBとして研鑽していきたいと思ひます。

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。

連絡先：未来構想 PF 事務局 大口

電話：03-4334-8157 メール：info@miraikoso.or.jp

〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28



今月の国際比較データ



●ノーベル賞（自然科学部門）の国別ランキング

今年もノーベル賞の受賞者発表の季節になりました。今世紀（2001年以降）に入ってから、日本人の受賞（自然科学部門）は米国の82人に次ぐ19人と世界第2位であり、英国の17人を抜き、フランスの13人、ドイツの10人をかなり上回っており、最近の日本人の受賞実績が世界の中でも目立っていることがうかがえます（図の「戦後2」参照）。ただし、数年前までは日本人は毎年のように受賞していましたが、2021年以降、日本人のノーベル賞受賞者が出ていないため（平和賞を除く）、日本でノーベル賞を取るような研究を行う力が衰えてきているのではという懸念が高まっているのも事実です。

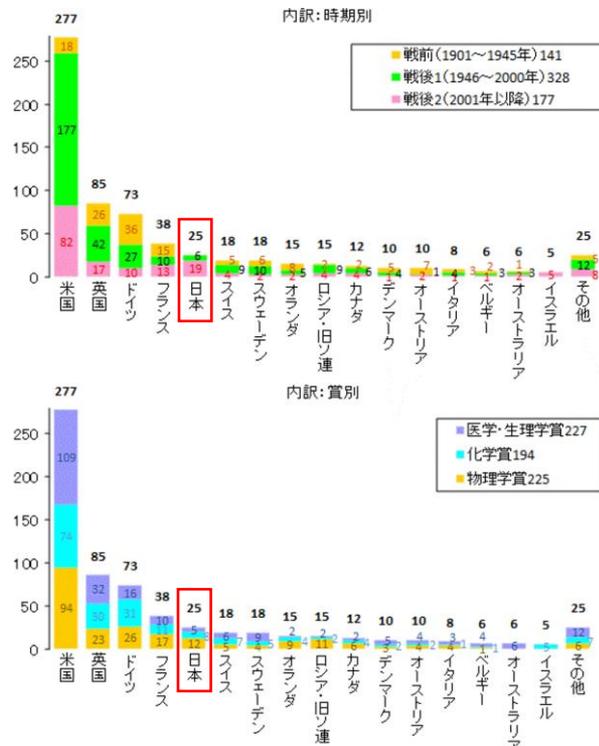


図 ノーベル賞（自然科学部門）の国別ランキング（2023年まで）
（上：時期別、下：賞別）
（出所）文科省「文部科学統計要覧」



PF 書店



本の題名をクリックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！

① AI覇権 4つの戦場 (ポール・シャール著 早川書房)

人工知能 (AI) が国家間競争に与える影響を包括的に叙述した『AI覇権 4つの戦場』。データ、計算 (コンピュータ)、人材、機構などのAIの社会実装を可能にする構成要素の国際競争の現状を克明に述べている。AIそのものにフォーカスし、その進化により戦争において効果的なコントロールをわれわれ人間が維持できなくなる可能性を指摘するとともに、AIの開発競争において「人材育成」と「組織の重要性」を重要視している。AIを基軸とした戦争とはどのようなものなのか？AI覇権をめぐる競争は続いていく。

② 町内会 (玉野 和志著 ちくま新書)

『町内会』。自分も家を建てた時に入会するか迷ったが、とりあえずは入会した。多くの町内会で5割を割り込んでいるという入会率。町内会はいざというとき、住民同士が助け合うこと (共助) や、行政や政治に要求すること (公助) が、円滑に連動できるように、日頃から緩やかなつながりを維持することにその存在意義がある。活動はその担い手自身が楽しめることを優先し、地域の人たちがそれとなく知り合える親睦を旨とすべきである。そして、衰退する町内会の今後として市民活動団体との連携を著者は提案している。



編集後記

猛暑の夏が終わったかと思いきや、9月もまだまだ最高気温30℃を超える暑い日が続く、外に出かけるのにも暑さ対策が必要でした。最近になり最高気温が25℃を下回って涼しくなり、ようやく過ごしやすい秋が到来した感じがします。天気の良い日には家族と外に出掛けて、秋の味覚や紅葉など、短い秋を楽しみたいと思います。皆様も今年の秋を満喫してみたいはいかがでしょうか。(S.Y)



私のインフラ巡礼



「京都に『銅閣』があるって??？」 (京都市東山区)



祇園閣銘板 (ドア上部)

大倉喜八郎氏
出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」

銅閣(祇園閣)

京都市の金閣(鹿苑寺)、銀閣(慈照寺)は有名だが、「銅閣」はあまり知られていない。が、実存する。「銅閣」の正式名称は祇園閣と呼ばれ、八坂神社の近くにある大雲院の境内に建立されている。

- ・高さ36m、3階建ての鉄筋コンクリート造
- ・屋根には、祇園祭の山鉾をイメージした造りとして銅板葺を使用
- ・石組に二層の楼を載せた三層構造で、万成石、黄龍石、紅龍石等を使用
- ・入口には西園寺公望が書かれた額「祇園閣」、階段部の壁には中国人画家が描かれた敦煌・莫高窟壁画模写がある。

銅閣は、大成建設や帝国ホテルの創始者である大倉喜八郎氏が、「金閣も銀閣もあるんだから、銅閣も作る」と決め、昭和3年(1928年)に完成した。設計者は、平安神宮や明治神宮等を手掛けた東京帝国大学教授の伊藤忠太氏で、大倉氏とはかねて親交があった。「雨傘が突風に煽られ、逆さまに反り返った時の形」という大倉氏のイメージを聞いていたが、構造上では無理があると判断し、代わりに「祇園祭の山鉾」の形を提案した。

銅閣は平成9年(1997年)12月12日国登録有形文化財として登録された。開放施設でないため知名度は今ひとつだが、異形を放つ個性的な姿は、他ではまず見られないものである。

京都へ行くなら、金閣(鹿苑寺)、銀閣(慈照寺)だけでなく銅閣(祇園閣)を回ってほしい。また、3階の展望階では、京都市内を望めるが、特別な空間に思えるほどの世界であり、夏や秋の季節に特別公開されているので、訪れる前に開催日のチェックが必要である。

(中日本ハイウェイエンジニアリング名古屋 (元JR東日本) 笠充孝さん)